

# 施設名：愛媛県立中央病院

班会議前（2018年6月）

		←急	緊急度	後→
↑ 高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代がん患者に関する啓発活動</li> <li>● 院内のAYAがんサポート体制強化</li> <li>● 愛媛県がん・生殖医療ネットワーク</li> <li>● おれんじの会でのAYAがん患者サポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 四国がんセンターとの交流－AYAがんに関して</li> <li>● 愛媛県のAYAがん患者の課題抽出－行政との協議</li> </ul>	
↓ 低				

具体的な取り組み：

- ・ 院内でAYAがんに対する啓発のための講演会または研修会

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（血液内科、乳腺科、婦人科、内分泌内科、泌尿器科、小児科）  
 看護師、臨床心理士、社会福祉士

		←急	緊急度	後→
↑ 高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院内職員に対するAYA世代がん患者に関する啓発活動（9月／12月）</li> <li>● 四国がんセンターとの交流・連携－AYAがんに関して</li> <li>● おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛媛県がん・生殖医療ネットワークとの連携による妊孕性温存</li> </ul>	
↓ 低				<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛媛県のAYAがん患者の課題抽出－行政との協議</li> </ul>

具体的な取り組み：

- ・ 院内職員に対するAYA世代がん患者に関する啓発活動（9月の医療連携懇話会／12月四国がんセンターとの共同講演会開催）
- ・ 四国がんセンターとの交流・連携－AYAがんに関して（9／10月に合同会議）
- ・ おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼（10月にWG会議松本陽子さんを招く）

AYA支援チームの課題

- ・ 院内職員に対するAYA世代がん患者に関する啓発活動（9月／12月）
- ・ 愛媛県がん・生殖医療ネットワークとの連携による妊孕性温存
- ・ 四国がんセンターとの交流・連携－AYAがんに関して
- ・ おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼

# 施設名：愛媛県立中央病院

半年後（2019年2年）

1年後（2019年6月）

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓ 低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院内職員に対するAYA世代がん患者に関する啓発活動（9月／12月）</li> <li>● 四国がんセンターとの交流・連携－AYAがんに関して</li> <li>● おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼</li> <li>● スクリーニングシートの改訂・実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛媛県がん・生殖医療ネットワークとの連携による妊孕性温存</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛媛県のAYAがん患者の課題抽出－行政との協議</li> </ul>

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓ 低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院内職員に対するAYA世代がん患者に関する啓発活動（9月／12月）</li> <li>● 四国がんセンターとの交流・連携－AYAがんに関して</li> <li>● おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼</li> <li>● スクリーニングシートの改訂・実施</li> <li>● 『がんサポートサイトえひめ』にAYA世代がんの情報 掲載協力</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛媛県がん・生殖医療ネットワークとの連携による妊孕性温存</li> </ul>

具体的な取り組み：

- ・ AYA世代がん患者に関する啓発活動（9月の医療連携懇話会／1月四国がんセンターとの共同講演会開催）
- ・ 四国がんセンターとの交流・連携－AYAがんに関して
- ・ おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼（松本陽子さんを招く）

具体的な取り組み：

- ・ AYA世代がん患者に関する啓発活動（9月の医療連携懇話会／1月四国がんセンターとの共同講演会開催）
- ・ 四国がんセンターとの交流・連携－AYAがんに関して
- ・ おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼（松本陽子さんを招く）
- ・ 『がんサポートサイトえひめ』にAYA世代がんの情報掲載協力

AYA支援チームの課題

- ・ 当院でも毎年60-100名のAYA世代がん患者が入院治療されている。
- ・ これまで支援は各科に任されており、十分にはされていない実態が浮き彫りになった。
- ・ AYAがん患者のニーズには、医師以外の職域の理解と連携が必要となるものも多く、院内リソースのみでの対応は困難なものもある
- ・ 地域ネットワークを形成することが不可欠である

# 施設名：愛媛県立中央病院

1年半後（2020年1月）

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 院内AYA世代がん患者に関する問題点の把握</li><li>● おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼 EAYANとの意見交換</li><li>● スクリーニングシートの実施と内容分析</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>● 愛媛県がん・生殖医療ネットワークとの連携による妊孕性温存の実施</li><li>● AYAがんに関して四国がんセンターや愛媛大学産婦人科教室との交流・連携</li></ul>
			<ul style="list-style-type: none"><li>● 愛媛県のAYAがん患者の課題抽出—行政との協議</li></ul>

具体的な取り組み：

- ・ AYA世代がん患者に関する啓発活動—引き続き種々の機会を捉えて院内医療従事者に啓発していく
- ・ おれんじの会でのAYAがん患者サポート協力依頼（松本陽子さん  
→EAYANとの交流や連携
- ・ スクリーニングシートの定期的な分析で、AYA世代がん患者の支援ニーズを把握し、当院の問題点を解決していく

AYA支援チームの課題

- ・ 新規開発したスクリーニングシートによるAYA世代がん患者の支援ニーズの把握
- ・ そのニーズに対する実際の支援実施
- ・ 院内のAYA世代がん患者診療の実問題点の把握

# 施設名：愛知県がんセンター中央病院

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

未着

		←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの立ち上げ</li> <li>● 支援体制に不足している事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な支援内容</li> </ul>		
	● AYAがん患者の把握・捕捉			

		←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの		

- 具体的な取り組み：
- ・ AYA支援チームメンバーを選出しています（ほぼ終了）
  - ・ AYA支援チーム会議の開催

# 施設名:愛知県がんセンター中央病院

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

		緊急度	
		←急	後→
↑高 重要度	半年以内に取り組むもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの定例会議の開催</li> <li>● 支援体制に不足している事項の検討</li> </ul>	1-2年のあいだに取り組むもの <ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な支援内容</li> </ul>
	低↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAがん患者の把握・捕捉</li> </ul>	

		緊急度	
		←急	後→
↑高 重要度	半年以内に取り組むもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの定例会議の開催</li> <li>● 支援体制に不足している事項の検討</li> <li>● AYA患者の実態の把握</li> </ul>	1-2年のあいだに取り組むもの <ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な支援内容</li> </ul>
	低↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAがん患者の把握・捕捉</li> <li>● 情報発信</li> </ul>	

具体的な取り組み：  
 ・ AYA支援チームの定例会議の開催: 7月より開催  
 ・ 支援体制に不足している事項の検討: 定例会議で検討  
 ・ AYA患者の実態の把握: スクリーニングシート (国立がんと共通) を使用予定 (定例会議で検討)

AYA支援チームの課題  
 ・ 総合的・具体的な支援体制の欠如  
 ・ AYAがん患者の把握・捕捉  
 ・ AYA患者の実態の把握  
 ・ 情報発信AYA支援チームの課題

# 施設名:愛知県がんセンター中央病院

1年半後(2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取る組むもの		1-2年のあいだに取る組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院内AYA支援に関連する内容の現状把握</li> <li>● 生殖性温存の院内統一</li> <li>● AYA支援チームの活動内容明確化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの周知</li> <li>● 院内で必要性認知</li> </ul>

具体的な取り組み:

- ・ 当院の過去5年間のAYA診療件数の把握
- ・ 医療者のAYA支援に関する認識調査
- ・ 生殖性支援の実際
- ・ 就学就労に関する動向
- ・ ニーズ調査(「AYA世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究」参加)

AYA支援チームの課題

- ・ AYA支援のための現状把握がされていない
- ・ 院内でのAYA支援の必要性の周知がされていない

# 施設名：昭和大学藤が丘病院

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

まだ話し合いを持っていない  
 （施設としての対応が必要なことであるため、AYAセンター長と事務責任者との会議は行っている）

←急		緊急度	後→
↑ 高	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代成人がんの実態を把握する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代専用病棟を設置する。</li> <li>● リラックスルームなどAYA世代患者がくつろげる場を設置する。</li> </ul>
↓ 低			

←急		緊急度	後→
↑ 高	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代がんの現状把握</li> <li>● 医療従事者への啓蒙活動</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専用病棟（病床）の確保</li> <li>● 勉強部屋、談話室などの確保</li> </ul>
↓ 低	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 提供すべき情報の整理</li> </ul>		

具体的な取り組み：  
 ・病院事務、管理者を通じリアルタイムで把握できる体制を整える。  
 ・ポスター掲示、院内報への投稿、HPの改善を行う。

AYA支援チームの課題

- ・ 小児がん以外の患者把握
- ・ AYA世代がんに関する認知不足
- ・ 専用ベットまたは病室の確保
- ・ 提供すべき情報を共有されていない

# 施設名 : 昭和大学藤が丘病院

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

		←急	緊急度	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小児がん以外のAYA世代がん患者さん確実な把握。</li> <li>● 調査票によるアンメットニーズの把握。</li> <li>● さらなるAYA世代がんについての院内外への周知。</li> </ul>		
↓低				

		←急	緊急度	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小児がん以外のAYA世代がん患者さん確実な把握。</li> <li>● 調査票によるアンメットニーズの把握。</li> <li>● さらなるAYA世代がんについての院内外への周知。</li> <li>● AYA世代がんtumor boardの開催</li> </ul>		
↓低				

具体的な取り組み :

- ・ 関連科医師、看護師、SWが集まり発生した症例についてtumor boardを月1回開催する。
  - これによって自動的に院内にいるAYA世代がん患者を把握できる。
- ・ 患者把握については、院内がん登録データから過去分については把握する。
- ・ 各診療科のkey person、がん認定看護師、SWなどAYA世代がんに関心のある人材が増えてきた。
  - くAYA世代小児がんだけでなく、成人がんに対する具体的な支援を開始したい。

AYA支援チームの課題

- ・ AYA世代成人がん患者に対する具体的な支援
- ・ 成人診療科に対するAYA世代がんの啓蒙
- ・ 多職種連携

# 施設名 : 昭和大学藤が丘病院

1年半後 (2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 患者補足の徹底</li><li>● AYA世代がん患者サロンの実施</li><li>● 個々のアンメッドニーズの達成度の確認</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>● 横浜市と協力し私立高校生の学習支援</li></ul>

具体的な取り組み：

- ・ 地域連携室と連携し、AYA世代がん患者の捕捉を徹底する (2020年度)。
- ・ AYA世代がん患者サロンを実施する (年3回程度を予定)。

AYA支援チームの課題

- ・ 成人診療科医師の意識不足による患者補足の漏れ。
- ・ 補足の漏れにより個々の患者さんの対応にバラツキが生じる。

# 施設名：北海道大学病院

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

まだ話し合っていない

		←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓ 低	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小児診療科と成人診療科の積極的連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 就学・就労支援</li> <li>● 家族支援</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代診療病床</li> </ul>	

		←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓ 低	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小児診療科と成人診療科の積極的連携</li> <li>● AYA世代の診療体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 就学・就労支援</li> <li>● 家族支援</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代診療病床</li> </ul>	

### 具体的な取り組み：

・現在は小児がん長期フォローアップWGの枠組みで話し合っているが、今後は、病院として長期フォローアップを含むAYA世代の診療体制について話しあうWGを立ち上げていく予定

### 具体的な取り組み：

・現在はAYAの問題は小児がんの長期フォローアップWGの枠組みで話し合っている。しかしAYA世代に特化した枠組みを北大病院として新たに立ち上げて、長期フォローアップをふくむAYA世代の診療体制、小児診療科と成人診療科との連携などを構築していく予定である。

### AYA支援チームの課題

- ・ 小児診療科と成人診療科の積極的連携
- ・ AYA世代の診療体制の構築
- ・ 就学・就労支援
- ・ 家族支援
- ・ AYA世代診療病床

# 施設名:北海道大学病院

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代支援チームの立ち上げ</li> <li>● AYA世代診療の問題点の抽出</li> <li>● AYA世代の患者のために特化した相談窓口の開設</li> <li>● 苦痛等のスクリーニング体制</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAがんの診療科連携</li> <li>● 現状以上の就学・就労支援</li> <li>● 家族支援</li> <li>● 小児がんサバイバーだけでなくAYA患者の長期フォローアップ体制を構築</li> <li>● 生殖細胞保存体制の構築</li> </ul>
	● ピアサポートの体制整備		● AYA世代への支援機能として大学と地域の連携体制の構築

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 患者相談窓口の設置</li> <li>● 講演会、勉強会</li> <li>● 妊孕性温存</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピアサポートの体制整備</li> <li>● AYAがんの診療科連携</li> </ul>
	● 長期フォローアップ体制の構築		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代がん診療に関するガイドライン・マニュアル</li> <li>● AYA世代への支援機能として大学と地域の連携体制の構築</li> </ul>

具体的な取り組み：

- ・AYA世代支援チームの立ち上げ  
病院内に正式なチームとして発足
- ・AYA世代診療の問題点の抽出  
院内の現状調査を行う予定
- ・AYA世代の患者のために特化した相談窓口の開設  
現状の医療相談室に窓口が明確になるような方策を講じる
- ・苦痛等のスクリーニング体制  
緩和ケアチームが中心になり、体制を構築する

具体的な取り組み：

- ・患者相談窓口の設置  
就労・就学・復職支援窓口の設置  
経済的問題に関する相談窓口の設置  
Webやホームページを介した情報提供
- ・講演会、勉強会  
小児がん拠点病院事業と造血幹細胞移植拠点病院事業との合同企画  
地域中核病院のスタッフとの情報共有
- ・妊孕性温存  
小児がん拠点病院事業でまとめたマニュアルを全世代に使用できるように改訂作業をすすめる・

AYA支援チームの課題

- (1)患者相談窓口の設置
- (2)妊孕性温存
- (3)講演会、勉強会
- (4)長期フォローアップ体制の構築
- (5)AYA世代がん診療に関するガイドライン・マニュアル
- (6) AYAがんの診療科連携
- (7)AYA世代がん診療に関するガイドライン・マニュアル
- (8)ピアサポートの体制整備
- (9) AYA世代への支援機能として大学と地域の連携体制の構築

# 施設名 : 北海道大学病院

1年半後 (2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 小児がんサバイバーだけでなくAYA患者の長期フォローアップ体制を構築</li><li>● 生殖細胞保存体制の構築</li><li>● 苦痛等のスクリーニング体制</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>● AYAがんの診療科連携</li><li>● 現状以上の就学・就労支援</li><li>● 家族支援</li></ul>
↓低	<ul style="list-style-type: none"><li>● AYA世代への支援機能として大学と地域の連携体制の構築</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>● ピアサポートの体制整備</li></ul>

具体的な取り組み：

- ・小児がんサバイバーだけでなくAYA患者の長期フォローアップ体制を構築  
診療科横断的なフォローアップ体制について話し合いを進める
- ・生殖細胞保存体制の構築  
院内および北海道地域での体制整備を進める。
- ・苦痛等のスクリーニング体制  
緩和ケアチームが中心になり、体制を構築する
- ・AYA世代への支援機能として大学と地域の連携体制の構築  
生殖細胞保存体制の構築を第一歩として北海道地域のAYA支援体制構築を進める。

AYA支援チームの課題

- ・小児がんサバイバーだけでなくAYA患者の長期フォローアップ体制を構築
- ・生殖細胞保存体制の構築
- ・苦痛等のスクリーニング体制
- ・AYA世代への支援機能として大学と地域の連携体制の構築
- ・AYAがんの診療科連携
- ・現状以上の就学・就労支援
- ・家族支援、ピアサポートの体制整備

# 施設名：独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（腫瘍内科、乳腺科、小児科）  
 看護師、理学療法士、臨床心理士

		←急	緊急度	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		● 院内・院外職員向け研修会	● 妊孕性温存地域連携	
↓低	重要度	● 高校生の学習支援		● 個別相談体制

		←急	緊急度	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		● 院内・院外職員向け研修会	● 妊孕性温存地域連携	
↓低	重要度	● AYA世代がん患者の把握、捕捉（問題点の掘り起こし）		● 個別相談体制（治療方針の意思決定支援）

具体的な取り組み：  
 ・10月31日 院内職員向け研修会  
 ・12月8日 院外医療従事者向け講習会

具体的な取り組み：  
 ・10月31日 院内職員向け研究会  
 ・12月8日 院外医療従事者向け講習会（それに向けて何回も事前打合せを多職種で行なっており、このことが非常に良い有意義と考えられる）

AYA支援チームの課題  
 ・院内・院外職員向け研修会  
 ・妊孕性温存地域連携  
 ・AYA世代がん患者の把握、捕捉（問題点の掘り起こしが不十分）  
 ・個別相談体制（治療方針の意思決定支援）

# 施設名:独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

未着

		緊急度	
		←急	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの
	低↓		

		緊急度	
		←急	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの <ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代がんの診療支援</li> <li>● 全職種におけるAYA世代がんの教育推進</li> <li>● AYA支援チームの地域連携</li> <li>● 生殖医療専門施設との連携強化</li> </ul>	1-2年のあいだに取り組むもの <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校生入院患者の学習支援の推進</li> <li>● 診断・治療開始時からの就労支援</li> <li>● 患者ニーズに応じた意思決定支援体制の構築</li> </ul>
	低↓		

具体的な取り組み:

- ・ AYA世代がんの診療支援  
リーフレット作成  
若者の集い(LIP)開催
- ・ 全職種におけるAYA世代がんの教育推進  
院内職員向け研修会(10月15日、17日)
- ・ AYA支援チームの地域連携
- ・ 生殖医療専門施設との連携強化

AYA支援チームの課題

- ・ 全職種におけるAYA世代がんの教育推進
- ・ AYA世代がんの診療支援
- ・ 高校生入院患者の学習支援の推進
- ・ 診断・治療開始時からの就労支援
- ・ 生殖医療専門施設との連携強化
- ・ AYA支援チームの地域連携
- ・ 患者ニーズに応じた意思決定支援体制の構築

# 施設名:独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

1年半後 (2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要性 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全職種におけるAYA世代がんの教育推進</li> <li>● AYA世代がんの診療支援充実化</li> <li>● AYA支援チームの地域連携</li> <li>● 生殖医療専門施設との連携強化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 診断・治療開始時からの就労支援</li> <li>● 患者ニーズに応じた意思決定支援体制の構築</li> <li>● 高校生入院患者の学習支援の推進</li> </ul>

具体的な取り組み：

- ・全職種におけるAYA世代がんの教育推進  
院内職員向け研修会
- ・AYA世代がんの診療支援充実化  
院内のAYA支援チームの活動継続
- ・AYA支援チームの地域連携  
2020年2月25日(土) 開催予定のAYA世代がん 患者・家族支援ネットワーク構築プログラム in Fukuoka 後に対策。
- ・生殖医療専門施設との連携強化  
これまでの活動を継続

AYA支援チームの課題

- ・全職種におけるAYA世代がんの教育推進
- ・AYA世代がんの診療支援充実化
- ・AYA支援チームの地域連携
- ・生殖医療専門施設との連携強化
- ・診断・治療開始時からの就労支援
- ・患者ニーズに応じた意思決定支援体制の構築

# 施設名： 国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（腫瘍内科、血液内科、乳腺科、整形外科、小児科、小児外科、精神科、緩和医療科、副院長）  
 看護師、薬剤師、臨床心理士、社会福祉士、栄養管理部門

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの基礎的な体制作り</li> <li>● AYA世代向け苦痛のスクリーニングとトリアージ体制</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAチームの運営手順書の固定</li> <li>● AYAチームの効果判定</li> <li>● Unmet needsに対する支援計画</li> </ul>
↓ 低	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAチームの院内周知</li> <li>● AYAチームの外部アピール、周知</li> <li>● 啓発・教育的発動</li> </ul>		

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代の患者と支援状況の現状把握</li> <li>● 支援チームの基礎的な体制作り</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援チームの運営手順の確定</li> <li>● 取組の効果判定</li> <li>● 資金的な制約、持続可能性等への対応</li> </ul>
↓ 低	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援チームの院内周知</li> <li>● 支援チームの外部アピール、周知、啓発・教育的活動</li> </ul>		

具体的な取り組み：

- AYA世代の患者と支援状況の現状把握（①当院のAYA患者数とニーズの把握、②診療科や病棟・外来での対応の実態把握）
- 基礎的な体制作り（スクリーニングとトリアージ手順の作成→運営手順書への落とし込み）

AYA支援チームの課題

- AYA世代の患者と支援状況の現状把握
- 支援チームの基礎的体制作り
- 支援チームの運営手順の確定
- 適切な効果判定を設定し、取組を検証
- 支援チームの活動周知：院内周知、外部周知、啓発・教育活動
- 人員配置を含めた資金的な制約、持続可能性等の出口戦略 → 医療チームとしての体制や活動の標準化

# 施設名: 国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

未着

		緊急度	
		←急	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの基礎的な体制作り (対応済)</li> <li>● AYA世代向け苦痛のスクリーニングとトリアージ体制                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての入院AYA患者へのスクリーニング</li> <li>・外来患者へのスクリーニングの拡大</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAチームの運営手順書の固定</li> <li>● AYAチームの効果判定</li> <li>● Unmet needsに対する支援計画</li> <li>● より効率的なスクリーニングシートの開発</li> <li>● 苦痛の分析とトリアージ状況の把握</li> </ul>
↓低		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAチームの院内周知</li> <li>● AYAチームの外部アピール、周知</li> <li>● 啓発・教育的活動                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内研修会を開催</li> </ul> </li> </ul>	

		緊急度	
		←急	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの
↓低			

具体的な取り組み:

- 入院患者スクリーニング
  - ・3月 入院15病棟中5病棟 (乳腺腫瘍内科・乳腺外科・血液内科・脳脊髄腫瘍科・骨軟部腫瘍科・小児腫瘍科・造血幹細胞移植科・放射線治療科) の苦痛のスクリーニング実施状況の確認とさらに2病棟 (泌尿器科・大腸外科・婦人科) への拡大
  - ・5月 実施中の病棟より課題抽出を行い、残りの病棟への拡大をする。
- 外来患者スクリーニング
  - ・4月 外来患者へのスクリーニングの拡大についての運用検討開始

AYA支援チームの課題

- ・基礎的体制作り: ①スクリーニングとトリアージ、②運営手順、③支援計画
- ・取組の効果について検証しにくい: 効果判定
- ・AYAチームの活動周知: 院内周知、外部周知、啓発・教育活動
- ・人員配置など資金的な制約
- ・すべての入院・外来のAYA世代がん患者への苦痛のスクリーニングの実施

# 施設名 : 国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院

1年半後 (2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの基礎的な体制作り (対応済)</li> <li>● AYA世代向け苦痛のスクリーニングとトリアージ体制               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての入院AYA患者へのスクリーニング</li> <li>・ 外来患者へのスクリーニングの拡大</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAチームの運営手順書の固定</li> <li>● AYAチームの効果判定</li> <li>● Unmet needsに対する支援計画</li> <li>● より効率的なスクリーニングシートの開発</li> <li>● 苦痛の分析とトリアージ状況の把握</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAチームの院内周知</li> <li>● AYAチームの外部アピール、周知</li> <li>● 啓発・教育的活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内研修会を開催</li> </ul> </li> </ul>		

具体的な取り組み：

- 入院患者スクリーニング
  - ・ 入院15病棟中 8 (← 5) 病棟 (乳腺腫瘍内科・乳腺外科・血液内科・脳脊髄腫瘍科・骨軟部腫瘍科・小児腫瘍科・造血幹細胞移植科・放射線治療科) の苦痛のスクリーニング実施状況の確認と、さらに3 (← 2) 病棟 (泌尿器科・大腸外科・消化器内科・婦人科) への拡大 (対応済)
    - ・ 実施中の病棟より課題抽出を行い、残りの病棟への拡大をする。(対応済)
- 外来患者スクリーニング
  - ・ 外来患者へのスクリーニングの拡大についての運用検討開始 (対応開始)

AYA支援チームの課題

- ・ 基礎的体制作り：①スクリーニングとトリアージ、②運営手順、③支援計画
- ・ 取組の効果について検証しにくい： 効果判定
- ・ AYAチームの活動周知：院内周知、外部周知、啓発・教育活動
- ・ 人員配置など資金的な制約
- ・ すべての入院・外来のAYA世代がん患者への苦痛のスクリーニングの実施

# 施設名： 国立成育医療研究センター

班会議前（2018年6月）

		←急	緊急度	後→
↑ 高	重要性	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA病棟への無菌室の設置</li> <li>● 外来フォロー中のAYA患者支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 病棟にAYAルーム設置。</li> <li>● 院内トランジションレジストリーの作成</li> </ul>	
	↓ 低			

具体的な取り組み：

- ・ AYA対応病棟に無菌室を設置し、可能な限りAYA病棟での診療を継続する
- ・ 外来でのAYA支援を充実させるため、長期フォローアッププログラムに連動させた持続的なAYA支援プログラムを開発する

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（小児科、小児外科）、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士  
 言語療法士、臨床心理士、社会福祉士、保育士、CLS

		←急	緊急度	後→
↑ 高	重要性	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小児・AYA病棟への無菌室の設置</li> <li>● AYAサバイバーシップ支援向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフタイムコホート調査による小児がんサバイバーの問題についての情報収集と発信</li> <li>● 院内トランジションレジストリーの作成</li> </ul>	
	↓ 低			<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAルーム設置</li> </ul>

具体的な取り組み：

- ・ 小児・AYA病棟での無菌室設置工事を開始、半年以内に稼働開始予定
- ・ 治療後の性腺機能・妊孕性などの晩期合併症リーフレット配布と情報提供および長期フォローアップ外来での個別面談の機会提供と情報提供
- ・ サバイバーシップ向上のためのセッションの開催（体力/運動および認知機能/学習の評価と向上のための指導、サロン開催）

AYA支援チームの課題

- ・ 小児がんセンター病棟には、小児・AYA病棟と乳幼児病棟の2つがあるが、無菌室が乳幼児病棟にしかないため、造血細胞移植が必要な患者は、乳幼児病棟に転棟する必要があるため、周囲環境がAYA患者になじまない
- ・ 小児がん治療後の具体的な問題についての情報収集と発信が必要
- ・ AYA患者のサバイバーシップ支援向上、トランジション整備が必要
- ・ 病棟にAYAルームがない。AYA専用病室がない。入院治療中は院内学級がサロンの役割も果たすが退院後に利用可能なサロンがない

# 施設名：国立成育医療研究センター

半年後（2019年2年）

1年後（2019年6月）

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生殖機能・温存療法チェックシート導入</li> <li>● AYA支援多職種ワークショップ実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフタイムコホート調査による小児がんサバイバーの問題についての情報収集と発信</li> <li>● 院内トランジションレジストリーの作成</li> </ul>

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生殖機能・温存療法チェックシート導入</li> <li>● AYA支援多職種ワークショップ実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフタイムコホート調査による小児がんサバイバーの問題についての情報収集と発信</li> <li>● 院内トランジションレジストリーの作成</li> </ul>

具体的な取り組み：  
 生殖機能・温存療法チェックシート作成済み、2019.2月中に運用開始  
 ・2019.3.16ワークショップ開催予定

具体的な取り組み：  
 ・生殖機能・温存療法チェックシート作成済み、2019.2月中に運用開始  
 ・2019.3.16ワークショップ開催予定

AYA支援チームの課題  
 ・小児病院として成人施設とは異なる対応が必要

AYA支援チームの課題  
 ・小児病院として成人施設とは異なる対応が必要

# 施設名 : 国立成育医療研究センター

1年半後 (2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	● 小児がん診療拠点病院におけるがん生殖医療の均てん化にむけた情報共有と連携構築		● 関東甲信ブロックでの長期フォローアップ連携 ● 成人診療機関とのトランジション連携強化およびトランジション実績の蓄積
低↓	● AYA支援研究		

具体的な取り組み：

- ・ 2019.1.10 小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存 講演会 (AMED鈴木班) 於：成育

AYA支援チームの課題

1. 小児がん診療拠点病院におけるがん生殖医療の均てん化にむけた情報共有と連携構築
2. 成人診療機関とのトランジション連携強化およびトランジション実績の蓄積

# 施設名：静岡県立静岡がんセンター

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

未着

		←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院内連携の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● がん生殖医療</li> <li>● 施設間連携の強化</li> <li>● A Y A 世代がんの研究</li> </ul>		

		←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの		

# 施設名 静岡県立静岡がんセンター

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

未着

未着

		緊急度	
		←急	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの	

		緊急度	
		←急	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの	

# 施設名 静岡県立静岡がんセンター

1年半後（2020年1月）

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院内でのAYA世代病棟の効果的な活用の周知</li> <li>● AYA支援チームの効果的な専門職種構成とチーム運用</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域全体のAYA世代がん患者に必要な支援の理解と協力</li> </ul>

具体的な取り組み：

- ・スクリーニングとリンクナースを活用した院内のAYA世代がん患者の把握とそれに基づく病棟利用を含めたケア方針を検討するためのカンファレンスの実施
- ・AYA支援チームの組織化するためのワーキンググループ
- ・院内勉強会でのAYA世代の特徴の紹介（院内多職種での勉強会）

AYA支援チームの課題

- ・院内でのAYA世代病棟の効果的な活用の周知
- ・AYA支援チームの効果的な専門職種構成とチーム運用
- ・地域全体のAYA世代がん患者に必要な支援の理解と協力

# 施設名：大阪市立総合医療センター

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（緩和医療科）  
 看護師、社会福祉士

		←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	↑高	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	↓低	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習・就労・社会参加の支援についての周知啓蒙</li> <li>● 学校との連携(学習サポート、進路・進級、就職活動など)</li> <li>● スクリーニングをしても、ケアが必要な患者さんを抽出できない（苦痛であっても“なし”と答えていることが多い</li> </ul>		

		←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	↑高	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	↓低	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校との連携（学習サポート、進路・進学、就職活動など）</li> <li>● 学習・就労・社会参加の支援についての周知啓蒙</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● （AYA世代独自の）苦痛のスクリーニングの作成と実施</li> </ul>

- AYA支援チームの課題
- ・ 学習・就労・社会参加の支援についての周知啓蒙
  - ・ 学校との連携（学習サポート、進路・進学、就職活動など）
  - ・ （AYA世代独自の）苦痛のスクリーニングの作成と実施

# 施設名:大阪市立総合医療センター

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

未着

		←急	緊急度	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
↓低	重要度			

		←急	緊急度	後→
↑高	重要度	● 半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
↓低	重要度	● 学習・就労・社会参加の支援についての周知啓蒙		
		● 学校との連携 (学習サポート、進路・進学・就職活動など)		
		● (AYA世代独自の) 苦痛にスクリーニングの作成と実施		

### AYA支援チームの課題

- ・ 学習・就労・社会参加の支援についての周知啓蒙
- ・ 学校との連携 (学習サポート、進路・進学・就職活動など)
- ・ (AYA世代独自の) 苦痛にスクリーニングの作成と実施

# 施設名:大阪市立総合医療センター

1年半後(2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代がん患者の多い診療科との連携(診断時からの介入を増やす→診療報酬増も)</li> <li>● 病棟看護師への支援と教育NSの充実(AYA世代病棟・血液内科・脳神経外科病棟等)</li> <li>● AYA世代患者の(外来)対応窓口の広報</li> </ul>		
↓ 低			

## AYA支援チームの課題

- ・ AYA世代がん患者の多い診療科との連携(診断時からの介入を増やす→診療報酬増も)
- ・ AYA世代患者の(外来)対応窓口の広報(見える化)
- ・ 病棟看護師への支援と教育NSの充実(AYA世代病棟・血液内科・脳神経外科病棟等)

# 施設名：名古屋医療センター

班会議前（2018年6月）

←急		緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓ 低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA患者全例の把握及び個々のニーズの把握方法の確立</li> <li>● AYA支援チームの活動の広報</li> <li>● 生殖医療コーディネーターの人材確保</li> </ul>		

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（腫瘍内科、血液内科、外科、小児科、遺伝診療科）  
 看護師、薬剤師、作業療法士、臨床心理士、社会福祉士、CLS、HPS、  
 子ども療養支援士、管理栄養士、診療情報管理士、遺伝カウンセラー

←急		緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓ 低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 苦痛のスクリーニングの方法の改良</li> <li>● 生殖医療コーディネーターの確保</li> <li>● AYA支援チームの院内周知</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 患者へのAYA支援チームの周知</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新規AYAがん患者の把握の方法</li> <li>● 精神科医の参加</li> </ul>	

具体的な取組み：  
 ・AYA世代がん患者への苦痛スクリーニング(ESAS-rを含む)の実施によりスクリーニング法の妥当性を検討する

AYA支援チームの課題  
 ・新規AYA患者の把握の方法  
 ・苦痛のスクリーニングの方法の改良  
 ・精神科医の参加  
 ・生殖医療コーディネーターの確保

# 施設名:名古屋医療センター

半年後 (2019年2年)

未着

		←急	緊急度	後→
↑高 重要度	↑高	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	↓低			

1年後 (2019年6月)

		←急	緊急度	後→
↑高 重要度	↑高	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	↓低	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAスクリーニングシートの運用開始</li> <li>● 電子カルテにAYAサポートチーム依頼ボタンの開設</li> <li>● 生殖機能温存パンフレットの作成と配布</li> <li>● AYAサポートチームのホームページの開設</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAスクリーニングシート運用の徹底</li> <li>● AYAサポートチームへの介入依頼実績の向上</li> <li>● 職員のAYAがんの認知度を60%以上にする</li> <li>● リスクのある患者への生殖機能温存に関する情報提供の徹底</li> <li>● 遠隔教育を活用した高校教育支援の実施</li> </ul>

- AYA支援チームの課題
- ・ AYAサポートチームの周知
  - ・ 病院全体での生殖機能温存に関する情報提供
  - ・ 新規AYA患者の把握とニーズへの円滑な対応
  - ・ 遠隔教育を活用した高校教育支援の拡大

# 施設名:名古屋医療センター

1年半後 (2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓ 低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAスクリーニングシートの運用開始</li> <li>● 電子カルテにAYAサポートチーム依頼ボタンの開設</li> <li>● 生殖機能温存パンフレットの作成と配布</li> <li>● AYAサポートチームのホームページの開設</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAスクリーニングシート運用の徹底</li> <li>● AYAサポートチームへの介入依頼実績の向上</li> <li>● 職員のAYAがんの認知度を60%以上にする</li> <li>● リスクのある患者への生殖機能温存に関する情報提供の徹底</li> <li>● 遠隔教育を活用した高校教育支援の実施</li> </ul>

### AYA支援チームの課題

- ・ AYAサポートチームの周知
- ・ 病院全体での生殖機能温存に関する情報提供
- ・ 新規AYA患者の把握とニーズへの円滑な対応
- ・ 遠隔教育を活用した高校教育支援の拡大

# 施設名： 聖マリアンナ医科大学病院

班会議前（2018年6月）

未着

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの

班会議後（2018年8月）

話し合ったかどうかは無回答

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	1) AYA支援チームの立ち上げ ・メンバーの選定 ・初回ミーティング；顔合わせ、Missionの確認、今後のスケジュール確認 2) 各診療科・部門におけるAYAがんの現状把握 3) AYAチームの始動		①AYAがんの啓発 ②AYA支援チームの院内周知（医療従事者向け周知） →活動、窓口、メンバー紹介 ③AYA支援チームの院内周知（通院・入院患者向け周知） →ポスター、患者会等を介して （チーム発足後に協議すべきだが仮の課題として） ①AYAピアサポート体制の構築 ②小児がん患者の移行期医療について（晩期合併症への対応） ③AYAがん患者の支援ができる医療スタッフの教育

具体的な取り組み：

- 上記1) 2) の詳細
- メンバーの選定・・・どのように？ 例；各診療科部長、部門長からそれぞれ選定してもらうなど。部門では腫瘍C、遺伝診療部、リハビリテーション部、MSCなどか？医師看護師以外にも幅広い職種のメンバーがいたほうが良いのでは。臨床心理士、ソーシャルワーカー、等。●コアメンバー（仮称。中心となるメンバー）がいたほうが良いのでは。癌を診療するかの医師、精神科医師、小児科医師、など。 ●本部はどこ？腫瘍C？
  - 各診療科や部門（腫瘍Cなど）にアンケートを配布？またはAYAチーム立ち上げ後にメンバーが自身の所属科について報告するので良いか？ ●アンケート内容；AYAがん患者の概数（これは事務部門でいけるか）、AYAがん患者およびその家族への支援、サポートの実態など。

# 施設名 : 聖マリアンナ医科大学病院

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	1) 各診療科・部門におけるAYAがん患者の捕捉 2) AYAがんの啓発 院内勉強会、講演会 3) AYA支援チームの院内周知 ①医療従事者向け周知 ②患者向け周知		①小児がん患者の移行期医療について (晩期合併症への対応) ②AYAがん患者の支援ができる医療スタッフの教育 ③AYAに特化したスクリーニングシート (国立がん研究センター版)の運用開始 1.ピアサポート体制の構築 2.家族支援体制の構築

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	1) 各診療科・部門におけるAYAがん患者の捕捉 正確な患者拾い上げ方法の検討 2) 現チームで提供可能な支援内容の確認 3) AYAがんの啓発 院内勉強会、講演会 4) AYA支援チームの院内周知 ①医療従事者向け周知 ②患者向け周知		①小児がん患者の移行期医療について (晩期合併症への対応) ②AYAがん患者の支援ができる医療スタッフの教育 ③AYAに特化したスクリーニングシート (国立がん研究センター版)の運用開始 1.ピアサポート体制の構築 2.家族支援体制の構築

### 具体的な取組み:

- 1) AYAがん患者の捕捉・・・医事課と連携を図る。
- 2) AYAがんの啓発・・・がん・生殖医療、心理、栄養などAYAがんに関するテーマで、チームメンバーや外部講師による勉強会、講演会を企画。本年1-2回開催予定。
- 3) AYA支援チームの院内周知・・・①医療従事者向けにポスターなど作成。活動内容や窓口、メンバーについて。②患者向け周知・・・リーフレット、患者会等を通じて。

### AYA支援チームの課題

- ①AYA患者の捕捉 ②AYAがんの啓発 ③AYA支援チームの周知

### 具体的な取組み:

- 1) AYAがん患者の捕捉・・・医事課と連携を図る。
- 2) 現チームで提供可能な支援内容の確認・・・心理、就労就学、妊孕性など依頼内容に応じ責任者またはミニチームを置き、依頼が来たらその内容に応じまずその責任者へ振り分けられるシステムとする。また、現状ではどのような支援が可能(不可能)か確認し院内に周知する。
- 3) AYAがんの啓発・・・がん・生殖医療、心理、栄養、アピアランスケアなどAYAがんに関するテーマで、チームメンバーや外部講師による勉強会、講演会を企画。本年2回開催予定。
- 4) AYA支援チームの院内周知・・・①医療従事者向けにポスターなど作成。活動内容や窓口、メンバーについて。②患者向け周知・・・リーフレット、患者会等を通じて。

### AYA支援チームの課題

- 1) AYA患者の捕捉 2) 現チームで提供可能な支援内容の確認 3) AYAがんの啓発 4) AYA支援チームの周知

# 施設名: 聖マリアンナ医科大学病院

1年半後 (2020年1月)

	← 急	緊急度	後 →
↑ 高 重要度 ↓ 低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	1) 各診療科・部門におけるAYAがん患者の捕捉 正確な患者拾い上げ方法の検討  2) 現チームで提供可能な支援内容の確認  3) AYAがんの啓発 院内勉強会、講演会  4) AYA支援チームの院内周知 ①医療従事者向け周知 ②患者向け周知		①小児がん患者の移行期医療について (晩期合併症への対応)  ②AYAがん患者の支援ができる医療スタッフの教育  ③AYAに特化したスクリーニングシート (国立がん研究センター版) の運用開始
			1.ピアサポート体制の構築 2.家族支援体制の構築

具体的な取組み:

- 1) AYAがん患者の捕捉・・・院内部署との連携で患者全例捕捉 (1年以内目標) 支援依頼用紙作成 (3月まで)
- 2) 現チームで提供可能な支援内容の確認・・・【AYA支援院内マニュアル】を作成 (6月まで)
- 3) AYAがんの啓発・・・講演会を企画。本年2回開催予定 (4月9月未定)
- 4) AYA支援チームの院内周知・・・院内向けの【AYA支援院内マニュアル】と患者向けの【マリアンナAYA支援チーム】を作成 (12月まで)

AYA支援チームの課題

- 1) AYA患者の捕捉
- 2) 現チームで提供可能な支援内容の確認
- 3) AYAがんの啓発
- 4) AYA支援チームの周知

# 施設名： 聖路加国際病院

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（腫瘍内科、婦人科、小児科）  
 看護師（がん専門看護師、遺伝看護専門看護師、緩和ケア専門看護師、化学療法専門看護師、リエゾンナース）  
 理学療法士、臨床心理士、社会福祉士、栄養士

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの立ち上げ Coreメンバー、連携メンバー検討</li> <li>● 当院のAYAチームの役割検討 AYA世代患者のスクリーニング方法？ AYA世代患者チェックリスト作成？等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 科を越えて臨床試験をできる体制構築または、必要性の周知</li> <li>● 院内のAYAピアサポート体制構築の検討</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームの院内への周知</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各診療科における長期フォローアップ体制の検討</li> <li>● 小児から成人科への移行期医療の在り方</li> </ul>

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代患者の相談窓口のfirst stepとして相談支援センターを紹介するためのリーフレットの作成</li> <li>● AYA世代患者へお渡しする包括支援パッケージの作成</li> <li>● AYA世代がん患者のオンコロジーmeeting の開催・実践の共有</li> <li>● 小児病棟で開催中のAYAカフェを成人診療科との協働開催へ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院内・外のAYAピアサポートグループの情報整理と発信</li> <li>● AYAがん臨床試験を科を越えた情報共有</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA患者リスト作成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各診療科における長期フォローアップ体制の検討</li> <li>● 小児から成人科への移行期医療の在り方</li> </ul>

具体的な取組み：

1. 成人がん診療科医師、がん相談支援センター看護師、(小児科) 化学療法専門看護師、小児リエゾン担当医師を中心に当院での連携体制を検討する。
2. 支援チームの役割の検討  
定期的な患者スクリーニングをするのか、定期的なAYA症例検討会をするのか検討する

AYA支援チームの課題

- ・ 外来治療がベースなので、外来でのAYA世代のスクリーニングが現実的だがあわただしい外来診療の中でスクリーニング後支援につなげる道筋をどう作るか？
- ・ 診療科間の温度差

# 施設名: 聖路加国際病院

1年後 (2019年6月)

半年後 (2019年2年)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA世代患者を相談支援センターに集め、困りごとをスクリーニングし、必要な情報提供につなげるための、ホームページの整備 →病院ホームページ内に【AYA世代の方々へ】の項目の増設を2月中に行う。総合受付から相談支援センターに歩いて相談員に会う動画（患者視線）を乗せる。</li> <li>● AYAパス（ARコード、困りごととスクリーニング）の作成 →AYA患者に渡すカード作成。ARコードを付け、病院ホームページにリンクさせる。人生の岐路の悩みごとを箇条書きに印刷し、自己スクリーニングし相談支援センターに立ち寄り契機となるカードとする。</li> <li>● AYAカフェシニアの開催 →月1回 夕方、入院・外来患者を対象のカフェを開催する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA発症の長期フォローアップ体制の検討</li> <li>● 小児期発症の長期フォローアップ体制の確立</li> <li>● AYAがん臨床試験の科を越えた情報共有</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA患者リストの作成</li> <li>● 院外AYAがん患者への当院のAYA診療体制の告知</li> <li>● 院内スタッフ・院外施設のAYAがん医療への取り組みの啓発</li> </ul>		

### AYA支援チームの課題

- ・ AYA患者の捕捉
- ・ AYA患者の困りごとへの気づき
- ・ 多職種meetingの場の設定
- ・ AYA患者自身が、人生の折々に相談支援センターに相談に訪れてもらえる為の認知度の向上

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 低↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>AYAがんサバイバーシップセンターの開設（東京都モデル事業）</b></li> <li>● <b>AYAがん連携調整看護師の配置</b> →AYAがん患者を捕捉し、適切な診療科あるいは相談外来（コメディカル外来）につなげる役割を担う。</li> <li>● <b>AYA Tumor Boardの開催</b> →AYAサポートチームによる月1回の症例検討会</li> <li>● <b>院内職員対象のAYA勉強会</b></li> <li>● <b>病院ホームページ、SNSの整備</b></li> <li>● <b>AYA Can カード・AYA Can(缶) バッチの制作</b> →AYA患者に渡すカード作成。ARコードで病院ホームページにリンク。</li> <li>● <b>患者サロンの設置</b> →入院患者向け：AYAカフェジュニア、外来患者向け：AYAカフェシニア</li> <li>● <b>AYAがんピアカウンセリングの実施</b></li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA発症の長期フォローアップ体制の検討</li> <li>● 小児期発症の長期フォローアップ体制の確立</li> <li>● AYAがん臨床試験の施設、診療科を越えた情報共有</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA患者リストの作成</li> <li>● 院外AYAがん患者への当院のAYA診療体制の告知</li> <li>● 院内スタッフ・院外施設のAYAがん医療への取り組みの啓発</li> </ul>		

### 具体的な取組み：

- ・ 本年9月頃を目標にAYAがんサバイバーシップセンターを開設予定。
- ・ 院内外のAYAがん患者を対象とした、医療・ケアの提供、相談支援、普及啓発活動を行う。

### AYA支援チームの課題

- ・ AYA患者の捕捉
- ・ AYA患者の困りごとへの気づき
- ・ 多職種meetingの場の設定
- ・ AYA患者自身が、人生の折々に相談支援センターに相談に訪れてもらえる為の認知度の向上

# 施設名: 聖路加国際病院

1年半後 (2020年1月)

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAがんサバイバーシップセンターの開設 (東京都モデル事業)</li> <li>● AYAがん連携調整看護師の配置</li> <li>● AYA Tumor Boardの開催 (毎週火曜日開催)</li> <li>● がん・生殖カンファレンス (月1開催 妊孕性温存、妊娠期がん等)</li> <li>● AYA Can カード・AYA Can(缶) バッチの制作</li> <li>● 病院ホームページ、SNSの整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAがん臨床試験の施設、診療科を越えた情報提供</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAスクリーニングの運用</li> <li>● 院内職員対象のAYA勉強会</li> <li>● 患者サロンの設置 →入院患者向け: AYAカフェジュニア、外来患者向け: AYAカフェシニア</li> <li>● AYAがんピアカウンセリングの実施</li> <li>● 小児-AYA移行期医療への取り組み</li> <li>● AYA発症の長期フォローアップシステムの構築</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA患者リストの作成</li> <li>● 院外AYAがん患者への当院のAYA診療体制の告知</li> </ul>		

## 具体的な取組み:

- ・小児-AYA移行期医療チームの発足  
→小児科・一般内科・血液腫瘍科(成人)・女性総合診療部の医療者が定期 meeting
- ・AYAサバイバーシップセンター主催 公開シンポジウム (2019/1/18)

## AYA支援チームの課題

- ・移行期医療への取り組み→**移行期医療チームができた!**
- ・AYAスクリーニングシート実施後の面談、評価の時間が足りない
- ・意識の高い診療科と、そうではない診療科の差がある
- ・院内への周知が十分でない

# 施設名：国立国際医療研究センター病院

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（腫瘍内科、乳腺科、小児科）  
 社会福祉士

←急		緊急度	後→
↑ 高	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乳癌患者、C S Sのがん・生殖のシステム作り</li> <li>● AYAがん患者の捕捉システム(苦痛のスクリーニングとの連動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 窓口となる看護師の確保</li> <li>● 長期フォローアップのプログラム作り</li> </ul>	
↓ 重要度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院内におけるAYAがんの啓発活動</li> </ul>		

←急		緊急度	後→
↑ 高	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYA支援チームのメンバーの拡充と活動目標のコンセンサス形成</li> <li>● AYA支援チームの広報</li> <li>● AYAがん患者捕捉システムについての話し合いの開始</li> <li>● 院内生殖医療連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AYAがん患者捕捉システムの確立</li> <li>● がん・生殖連携の地域への拡大</li> <li>● AYAがん患者のLTFUのシステム構築（循環器など）</li> </ul>	
↓ 重要度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院外AYA支援リソースの紹介（マギーズ東京、ピアサポート）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 院外AYA支援リソースとの連携（双方向での取り組みの可能性を検討）</li> </ul>

具体的な取り組み：  
 ・婦人科医とのミーティング  
 ・苦痛のスクリーニングと連動したAYAがん患者の捕捉システムについて、緩和医療チーム等関連部署との相談開始

具体的な取組み：  
 ・相談支援センターの患者向けパンフレットへにAYA支援チームを掲載  
 ・院内カンファレンス（「リトリートカンファレンス」）での啓発（12月）  
 ・院内がん・生殖連携の開始（乳腺→小児科に拡大）

AYA支援チームの課題  
 ・患者の捕捉、ニーズの捕捉とトリアージ  
 ・がん患者、AYA患者に関する認識の不足

# 施設名 国立国際医療研究センター病院

半年後 (2019年2年)

1年後 (2019年6月)

未着

		緊急度	
		←急	後→
↑高 重要度	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの	
↓低			

		緊急度	
		←急	後→
↑高 重要度	半年以内に取り組むもの	1-2年のあいだに取り組むもの	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電子カルテ上でのチームの情報共有（電子カルテ上で補足・介入状況を共有できるようにする）</li> <li>● スクリーニングシートの導入の検討（患者用）</li> <li>● 現場のスタッフへの啓発活動（カンサーボード委員会での活動状況報告等）</li> <li>● 院内掲示用のポスターの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外来患者の捕捉</li> <li>● 相談窓口（がん相談支援センター）の見える化</li> <li>● 地域連携の強化（がん・生殖、CAYA世代がん経験者の長期的な健康管理など）</li> </ul>	
↓低	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の医療機関への支援活動の広報（「仕事とお金の相談会」など）</li> </ul>		

- AYA支援チームの課題
- ・ 電子カルテから拾える情報の不足（現場の認識の不足？）
  - ・ 効果的なタイミングで情報提供や支援につなげること

# 施設名 国立国際医療研究センター病院

1年半後（2020年1月）

	←急	緊急度	後→
↑高 重要度 ↓低	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電子カルテ上でのチームの情報共有（電子カルテ上で補足・介入状況を共有できるようにする）</li> <li>● <u>スクリーニングシートの導入の検討（患者用）</u></li> <li>● <u>現場のスタッフへの啓発活動（カンサーボード委員会での活動状況報告等）</u></li> <li>● 院内掲示用のポスターの作成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外来患者の捕捉</li> <li>● 相談窓口（がん相談支援センター）の見える化</li> <li>● 地域連携の強化（がん・生殖、<b>CAYA世代がん経験者の長期的な健康管理</b>など）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の医療機関への支援活動の広報（「仕事とお金の相談会」など）</li> </ul>		

AYA支援チームの課題

- ・電子カルテから拾える情報の不足（現場の認識の不足？）
- ・効果的なタイミングで情報提供や支援につなげること

# 施設名：滋賀医科大学医学部附属病院

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

話し合いをもったメンバー  
 医師（腫瘍内科、血液内科、外科、婦人科、小児科）  
 看護師

	←急	緊急度	後→
↑ 高 ↑ 重要度 ↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遺伝性腫瘍症候群に対する診療体制が各診療科の疾患ごとでまとまらない</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多分野、多職種での常設チームが無い</li> <li>● 晩期障害(成人後の妊娠出産を含めて) のフォローアップ体制が未整備</li> </ul>
↓			

	←急	緊急度	後→
● ↑ 高 ↑ 重要度 ↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遺伝性腫瘍症候群に対する診療体制が各診療科の疾患ごとでまとまらない</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多分野、多職種での常設チームが無い</li> <li>● 晩期障害(成人後の妊娠出産を含めて) のフォローアップ体制が未整備</li> </ul>
↓			

具体的な取り組み：  
 ・臨床遺伝相談科の診療体制の整備

具体的な取り組み：  
 ・臨床遺伝相談科の診療体制の整備  
 ・多職種による遺伝カンファレンスやがん・生殖医療カンファレンスの実施→  
 遺伝や生殖から他のAYAの問題へ発展できればよいと思います

AYA支援チームの課題  
 ・多分野、多職種での常設チームが無い  
 ・晩期障害(成人後の妊娠出産を含めて) のフォローアップ体制が未整備  
 ・遺伝性腫瘍症候群に対する診療体制が各診療科の疾患ごとでまとまらない

# 施設名：滋賀医科大学医学部附属病院

半年後（2019年2年）

1年後（2019年6月）

		←急	緊急度	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全診療科からの拾い上げ</li> <li>● 総合病院なので、院内スタッフ全体ではAYAがんへの認識が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サポート資源の不足</li> <li>● 常設チームとしての立ち上げ、活動</li> </ul>	
↓低				

		←急	緊急度	後→
↑高	重要度	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全診療科からの拾い上げ</li> <li>● 総合病院なので、院内スタッフ全体ではAYAがんへの認識が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サポート資源の不足</li> <li>● 常設チームとしての立ち上げ、活動</li> </ul>	
↓低				

具体的な取り組み：

- ・ AYAスクリーニングシートの整備→拾い上げ、把握へ
- ・ 院内スタッフ向け周知・啓発

具体的な取り組み：

- ・ AYAスクリーニングシートの整備→拾い上げ、把握へ
- ・ 院内スタッフ向け周知・啓発

AYA支援チームの課題

- ・ サポート資源の不足
- ・ 常設チームとしての立ち上げ、活動
- ・ 全診療科からの拾い上げ
- ・ 総合病院なので、院内スタッフ全体ではAYAがんへの認識が低い

AYA支援チームの課題

- ・ サポート資源の不足
- ・ 常設チームとしての立ち上げ、活動
- ・ 全診療科からの拾い上げ
- ・ 総合病院なので、院内スタッフ全体ではAYAがんへの認識が低い

# 施設名：滋賀医科大学医学部附属病院

1年半後（2020年1月）

	←急	緊急度	後→
↑ 高 重要度 ↓	半年以内に取り組むもの		1-2年のあいだに取り組むもの
	● 全診療科からの拾い上げのルーチン化 ● AYAがんボードの定期化		● 常設チームとしての立ち上げ、活動 ● 総合病院なので、院内スタッフ全体ではAYAがんへの認識が低い

具体的な取り組み：

- ・ AYAがんボードの啓発、周知化→定期開催のススメ
- ・ AYAスクリーニングシートの整備→がんリンクナースからの拾い上げ→チームとして把握へ

AYA支援チームの課題

- ・ AYAがんボードの定期化
- ・ 常設チームとしての立ち上げ、活動
- ・ 全診療科からの拾い上げのルーチン化
- ・ 総合病院なので、院内スタッフ全体ではAYAがんへの認識が低い